

## 平成24年度第5回定例社会教育委員会議事録（議事要旨）

1 **開催日時** 平成25年2月21日（木）午後3時～5時

2 **開催場所** 中央図書館 2階 視聴覚室

3 **出席者**  
(委員)

舟田委員長、杉山副委員長、佐藤委員、松木委員、松浦委員、土井委員、山崎委員、布施谷委員、宮本委員、工藤委員

(事務局)

生涯学習部長、生涯学習部次長、生涯学習課長、生涯学習課主幹、郷土博物館主幹、青少年センター所長、市民スポーツ課長、運動公園スポーツ施設整備課長、高洲公民館長、中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長、日の出公民館長、中央図書館長、生涯学習係

4 **議 題**

(1) **報告事項**

- 1) 社会教育関係団体の解散について
- 2) 平成24年度第32回市美術展の開催結果について
- 3) 平成24年度浦安市成人式の開催結果について
- 4) うらやす文化市場の開催結果について
- 5) 青少年の健全育成に関する講演会の開催結果について
- 6) 浦安市青少年補導員連絡協議会設立30周年記念式典・祝賀会の開催結果について
- 7) 平成24年度千葉県メディアコンクール審査結果について
- 8) 平成24年度生涯学習フォーラムの開催について
- 9) 浦安市生涯学習推進計画素案について

(2) **その他**

- 1) 浦安市青少年問題協議会委員の推薦について
- 2) 次回会議日程について

5 **議事概要及び会議経過**

(1) **報告事項**

- 1) 社会教育関係団体の解散について  
生涯学習課長より報告した。
- 2) 平成24年度第32回市美術展の開催結果について  
生涯学習課主幹より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。  
(委員長) 落選というのはどのようなものか。  
(事務局) 応募の規格から外れた作品を審査で失格としたものである。
- 3) 平成24年度浦安市成人式の開催結果について  
生涯学習課長より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。  
(委員長) 大雪で気の毒だったが、70%以上の参加率というのは大したものだと思う。式典後も残る人はいたのか。  
(事務局) 比較的まっすぐ帰られる方が多かったと聞いている。

- (委員長) 他市の参加率と比べてどうか。
- (事務局) 他市と比べても、全国レベルで見ても、高い状況である。
- (委員) 毎年報道されるが、オリエンタルランド社の協力あってのものと思う。トラブルもなく、新成人が喜んで式典に参加するというイメージを浦安が全国に発信している。こういう良いことは続けてほしい。
- 4) うらやす文化市場の開催結果について  
生涯学習課主幹より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員長) 今後、毎年開催するのか。
- (事務局) 当初は3年に一度と想定していたが、大変好評であったので、できれば毎年行っていきたい。参加者からも同様の要望をいただいているので、予算の関係もあるが、3年に一度と拘らずに検討していきたい。
- (委員) ダンスサークルとして参加させていただいたが、100人近くの子どもたちの親や祖父母も含めると、小ホールでは席が足りず、席に座れない人で通路がいっぱいになってしまい、団体の交代時に出入りがしづらい状況だったので、大ホールでやらせてもらえたらよかった。  
その後のワークショップもとても好評で、広く皆さんに周知できる良い機会だったので、ぜひ継続していただきたい。
- 5) 青少年の健全育成に関する講演会の開催結果について  
青少年センター所長より報告した。
- 6) 浦安市青少年補導員連絡協議会設立30周年記念式典・祝賀会の開催結果について  
青少年センター所長より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) 青少年補導員は、どのような活動を日頃しているのか。
- (事務局) 一番大きな仕事としては、街頭補導がある。冬場は緑の帽子に腕章、白の防寒着を着て、青少年センターの職員とともにパトロールを行っている。地区パトロールとして、8ブロックの中学校区ごとに、教員や地域の民間有識者、PTAの方などが補導員として活動している。全体では101名の補導員がいる。  
そのほかに広報啓発活動として、駅前などで配布物を配りながら、青少年の健全育成を呼びかける活動を行っている。  
また、花火大会や盆踊り大会などの市の行事に合わせてパトロールを実施し、青少年の健全育成と非行防止に当たっている。
- (委員) パトロールの時間帯等は定期的なものか。
- (事務局) 市全域的に行う中央パトロールは月に6回、地区パトロールは月に2回行っている。行事の時には特別パトロールとして行っている。また、地域に不審者が出たりした場合には、補導員が臨時的に朝パトロールすることもある。
- (委員) 時間帯は。
- (事務局) 地区パトロールは、地区によって下校時間に合わせているところや7時以降に行っているところがある。中央パトロールは、時間帯を4つに区切り、一番遅い時間帯で7時から9時半頃まで行っている。

- 7) 平成24年度千葉県メディアコンクール審査結果について  
中央図書館長より報告した。
- 8) 平成24年度生涯学習フォーラムの開催について  
生涯学習課長より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) ストリートダンスの発表というのは珍しいが、どうしてか。
- (事務局) うらやす文化市場にも参加していただき、会場が満員になるくらい集まっていたいただいた団体である。非常に人気が高く、活動も盛んに行われている。
- (事務局) 近年、ダンスの人気はかなり高まっており、今年度から中学校の必修にもなってきた。昔はダンスと言うと社交ダンスやジャズダンスなどだったが、最近はブレイクダンスやストリートダンスの団体が増えてきている。今回のうらやす文化市場を支えているのもそういうダンスの団体だったということで、今回パネリストをお願いしたものである。ダンスを通じたコミュニケーションをどのように取ってきたのかという辺りを、お話ししたいという狙いがある。
- (委員) 駅前で踊っている団体の数が増えているようには思っていた。昔はマイナーだったものが、メジャーになってきている。
- (委員長) 大学ではどうか。
- (委員) 今はダンサーになりたいという学生もたまにいる。小さなサークルがいくつもある。人気があることは確かだと思う。
- (委員長) 高校ではどうか。
- (委員) 予餞会でダンスをやりたいというのはかなりいた。グループで参加したいということで、けっこうな数がやっていた。
- (委員) 娘はダンス部のある高校を選びたいと言っている。県内でダンスの関東大会に出ている高校もあり、趣味の域を超えてきていると思う。URSの中のお二人は世界大会に出た方で、うちのサークルの講師もしている。
- 9) 浦安市生涯学習推進計画素案について  
生涯学習課長より報告した。  
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) 公民館・図書館の地域施設としてのあり方の中で、市民の意識調査について書かれているが、具体的にどのような課題が浮かび上がってきたのか。
- (事務局) 平成22年度に市民意識調査を実施し、様々な意見が寄せられた。例えば、働き盛りの人は公民館を利用しづらいので、開館時間を延長してほしいとか、土日に働いている人向けの講座をやってほしいなどの意見があった。また、もっと専門的で高度な講座をやってほしいという意見もあった。
- (委員) 現場の職員として課題と思うものがあれば教えてほしい。
- (事務局) 一番の課題と思っているのは、公民館の講座が趣味・教養部分が多いこと。もっと地域が抱える課題を取り上げて、地域づくりができる人づくりができる講座をやらなければならない。この計画は「協働」をキーワードに作成した。今回、震災を受けて「市民の絆」ということを教訓として与えられたと感じたので、そういう思いが計画の中に盛り込まれていると思っている。

- (委員) 休館日のこともある。土・日・月にあたる祭日も閉館してしまうので、市民が休みの日に公民館が開いていない。公民館は市民のための施設なので、それらも含めて課題だと思う。それを解決しようとしているのか。
- (事務局) 基本施策Ⅰの「公民館や図書館など生涯学習施設の運営の充実」の中に、「市民感覚を生かした利用しやすい施設運営と整備」という言葉がある。この中で、今のようなご意見に取り組んでいこうということがあるとご理解いただきたい。
- (委員) 29年度までの5ヶ年計画とあるが、この5ヶ年が終わったら、また新たに5ヶ年計画を立てるのか。
- (事務局) 浦安市第2期基本計画が基になる市の計画であり、ここに合わせてある。第2期基本計画は2016年あたりに改定される見込みなので、それに合わせてこの計画も改定されることはあり得る。5ヶ年計画を作っても5ヶ年そのまま続くというのは難しく、途中で改定や見直しをしたり、1年残して次の計画にバトンタッチすることは考えられる。今の時点ではそこまで書き込んではいないが、上位計画の見直しに合わせて改定がされるということである。
- (委員) 若い人ほど言葉に対する感覚が違う。講演会で「地域で子育てを」と言うと、若いお母さんから、地域というのほどこまでが地域なのかとまじめに聞かれる。この計画で「地域」というのは浦安なので、「浦安に生きる」とか「この町に生きる」としてはどうか。地域という曖昧な言葉を繰り返すと伝わりづらい。
- (事務局) 広義の意味もあれば、狭義の意味もある。広義では、生活圈だけでなく仕事場も含めて捉えることもある。この計画で書かれている「地域」というのは浦安全部ではなく、個々の生活しているエリアと考えている。
- (事務局) 生活圈がどこからどこまでかというのは、なかなか設定できないので、あえて曖昧な言葉を使っているということはある。
- (委員) 「家族」と言っても世代によって捉え方が違う。あえて曖昧にしているというのは分かるが、浦安市の計画なのだから「この町の」でよいと思う。
- (委員) あまりにも「地域」の文字が多く、何をやるにしても最後は地域に還元するという印象を受ける。生涯学習なのだから、地域に限らずどこにしようと、人との連帯もあるし、個人の成長もあるので、あまり地域だけを強調しない書き方もあると思う。「世界市民」「日本人」「被災者の連帯」「東北の人との連帯」ということもあるのではないかと。あまり地域に限定すると、若い人に魅力のない語彙の使い方になるのではないかと。
- (委員) 生涯学習振興法でも、このような言葉の使い方を行っているのか確認してほしい。「地域に生きる人たちの豊かさを実感できる」というような言い方が、法にあって、一般的に使われやすいのかということを確認したい。
- (事務局) 市内に公民館が7館あるが、「各地域に7館配置している」という言い方をよくする。地域を単位に人づくりや地域づくりをしていく。それがまちづくりにつながっていけばよい。そういう学習活動を通じた地域づくりを進めていきたい。

- (委員) 公民館を拠点としてということか。
- (事務局) そうである。
- (委員) 日本とか世界まで広げるのではなく、まちづくりという視点で考えたらよいのか。
- (事務局) あくまで市の計画なので。
- (委員) 状況によっては市全体の計画でもあると思う。公民館を拠点とした地域ということを出すのはどうかと思う。
- (委員) 現実に美浜公民館を使うのは美浜の人だけではない。取れる公民館を取ると感じるので、必ずしもその地域の拠点になっているとは思わない。
- (事務局) 今まではそういう使い方をしてきたと思うが、地域の拠点として地域の方々が主に使うことを基本とした考え方を打ち出していく必要があると思う。地域の単位としては、公民館ということもあるし、市全体と捉えることもあるし、元町・中町・新町の中の地域ということもある。それは状況に応じて判断していくことになるのではないかと思う。
- (委員長) ある公民館は音楽の施設が良いとなると、市全体から愛好者が集まる、陶芸はあちらに、ということもある。
- (事務局) もちろんそれはあってよいと思う。
- (委員) 計画の視点の「学習成果を地域へ⇒地域づくり・まちづくり」というのは、どのような形で進めていくのか。中身はあるのか。
- (事務局) 基本施策Ⅴで示しているが、協働を進めていくには人が一番重要だろうということで、「学習支援のための人材育成と活用」として地域の学びを支える人材の確保に努めていくことや、公民館が地域のコーディネーター役として情報を提供し、地域の拠点となって地域づくりを進めていくということが大きなものである。また、学校や地域、市民大学、市民活動センター、大学とも連携し、事業や人材についての情報を提供し合いながら、施設間のネットワーク化を推進し、地域づくりの一つにしていきたいということである。
- (委員) そのような施策が結果的には地域の活性化やまちづくりにつながると思う。
- (事務局) 学ぶだけでなく、学んだことを地域にもっと還元してもらうようなシステムづくりが必要ではないかということである。
- (委員長) 具体的なことはこれから計画していくのか。
- (事務局) 素案には、課題や課題解決の方法は書いているが、具体的な現場との進め方などについては、今後協議していきたい。
- (委員) 今問題になっているのはいじめの問題だが、いじめは家庭の問題だと思う。親の教育、いじめに対する考え方についてはどうか。
- (事務局) 基本施策Ⅱの「青少年の健全育成」の中で、相談体制の確立という部分がある。
- (委員) それはいじめが起きた後の解決策で、いじめの予防策としての家庭や親に対するアプローチがどこかにないといけない。
- (事務局) 今一番問題になっているのは学校でのいじめだと思う。PTAの中でも検討されていると思うが、この計画では学校と地域の連携を進めていこうということで、学校の子どもたちが公民館

も含めて地域に出てきたり、あるいは地域の方々が何かを教えるために学校に入ったりする中で、子どもたちが地域の方々と触れ合い、交流、体験学習をする中で、内部的ないじめが減っていくということは期待できるのではないかと思う。

- (委員) その前に子育てだと思ふ。親が子どもをほったらかしにして、いじめる子になってしまう。親に子どもの育て方を教えられるとよい。
- (事務局) 家庭教育の充実として、親に対する教育が必要だということは書いているが、実際にそこに出てきてくれる方はよいが、出てこられないところで問題が起きているということもあり、難しい問題である。だからと言って何もしないということではなく、教育関係の計画にもそういうことは書かれているが、生涯学習の計画でも、親だけに任せるのではなく地域が子どもの教育にも関わっていくという方針を書いていく。
- (委員) 今みたいに教育の場をつくるから来なさいというのではなく、暗に教育になるようなことを事前にこちらから積極的に出向くようなシステムを作らないと、学習の場というのはなかなか行きづらい。私には関係ないという人と、敷居が高くて行けない人もいる。家庭に浸透させるような社会教育的なものを入れるかどうか。そういう積極的な動きがこれから必要ではないか。
- (委員) 公民館を地域の拠点にと言うのであれば、アフタースクールとして、小学校低学年の子が1時に学校が終わった後、夕方までの時間をいかに地域の大人たちと過ごせるかということを考えてほしい。公民館に子どもたちの場所づくりをすることを盛り込んでもらいたい。
- (委員) 学校に学童クラブがあるのではないか。
- (委員) 学童クラブがその機能を果たしているか怪しいところがある。単に見張ってくれてるお兄さんではなくて、もっと違うものを大人から欲しい子どもがいると思う。
- (事務局) 高洲公民館には児童センターがある。
- (委員) 各公民館に児童センターがあってもよいと思う。
- (事務局) 実態として、3時半から4時頃になると各公民館とも子どもたちでいっぱいになる。事業がある時もあれば、子どもたちがそれぞれロビーなどで大人や公民館職員とコミュニケーションを取っていることもあるので、時間帯によっては地域の児童センターのようになっている。
- (委員) TBSで取り上げられたアフタースクールでは、地域の大工さんと呼んできて公民館の中に小さな2階建てを子どもたちに作らせてしまうなど、すごいなと思うことがいっぱいあったので、ぜひ頭に入れておいていただければ。学童などの託児所的なものではなく、育てていくということ。
- (委員) 子どもより親。そういう場に出てこない、子どもに構わない親に、どうアプローチできるか。
- (事務局) 具体的な取り組みは個々に検討していくようになるが、全体的には家庭や学校だけに任せず地域で子どもを育てるという考え方を書き込んであるということなので理解してほしい。
- (委員) 保育園でも小学校でも中学校でも、公民館の講演会の案内や児

童センターだよりなどはたくさん配布される。アクションは起こしてもらっていると思うが、そこに出向く時間がほとんど取れない。東小でも120人くらいの1年生がいて、そのうち80何人かが学童保育に行っている。託児所的な学童保育に頼っている中で、母親がこの講演会に行くかなと思うと、時間帯のマッチングが難しいと思う。アクションは起こしてもらっているのに、そういう場に親が行かないのがいけないと言われると、そのとおりに言うしかない。

(委員) 親が行ける時間帯にやってもらえれば一番よい。

(委員) それでも行けない人は行けない。

(委員) 中学生を対象としたものはどうか。

(事務局) 中学生の家庭教育学級がある。

(事務局) 青少年の健全育成の中で、体験活動や交流活動など、教育を少し拡大して、そこに地域の大人が入っていく。

(委員) 参加型にすると、いい子しか参加しない。そこに参加しないような人たちをいかに拾い出すかが課題だと思う。

(事務局) 子どもを地域で育てるとよく言うが、地域の大人が学校に入り込んで、子どもたち一人ひとりを見るということが第一歩だと思う。それがもう少し広がっていけば、遊んでいるときにも声をかけられたりするので、公民館で学んだ学習成果を生かすということを学校でもどんどんやっていけば、子どもたちの顔が見えていく。そこが大事だと思う。

(委員) この施策の中で新規の施策はどれなのか、既存事業の充実なのか、どこの課がやるのか、いつから始めるのかということ、聞かれた時にある程度答えられるようにしておくべきだと思う。

(事務局) この計画に基づく事業計画書を別冊として作成するようになると思う。検討はしているが、まだお出しするまでには至っていない。

(事務局) 今日いただけなかったご意見等があれば、2月28日までにいただければと思う。

## (2) その他

1) 浦安市青少年問題協議会委員の推薦について  
現委員の杉山副委員長を推薦することとした。

2) 次回会議日程について

次回の会議は、平成25年4月18日(木)午後2時から中央図書館視聴覚室で開催する。

以 上